
 資 料

地域看護学実習に臨む看護系大学生の学習目標の分析

岡久玲子, 多田敏子, 藤井智恵子, 松下恭子

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部地域看護学分野

要 旨

【目的】本研究の目的は、地域看護学実習において、看護系大学で学ぶ4年次学生がどのような学習目標を持って臨んでいるのかを明らかにすることである。

【方法】地域看護学実習開始1ヵ月前に、実習要項に沿って実習目標および方法について説明を受けた後、学生92人が考え、記載した学習目標（保健所実習で学びたいこと、市町村実習で学びたいこと）の内容を分類した。

【倫理的配慮】学生には、研究目的を説明したうえで、研究への協力の有無は成績評価とは無関係であること、研究資料としての提供は自由意志であること、協力の諾否により不利益はもたらさないことを説明した。学生の学習目標の内容分類にあたっては、氏名や実習先を伏せ個人を特定できないようにした。

【結果】保健所実習における学習目標は、「保健師の業務や役割の学習」、「保健所の連携機能に注目しての学習」、「健康危機管理についての学習」、「地域の特性を考慮した学習」、「自己の関心に基づく焦点化した課題学習」に分類された。市町村実習における学習目標は、「保健師の業務や役割の学習」、「地域の特性を考慮した学習」、「自己の関心に基づく焦点化した課題学習」に分類された。

【考察】内容は抽象的なものから具体的なレベルのものまでであった。市町村の学習目標からは、保健所の場合より地域に密着した保健師活動について学ぼうとする姿勢が窺えた。近年、各市町村が工夫を凝らしたホームページにより詳細な地域情報の提供を行っており、実習地域の事前学習で地域特性をイメージしやすく関心も高まったためと思われる。

キーワード：地域看護学実習，看護系大学生，学習目標

はじめに

看護系大学では、看護師と保健師課程の統合カリキュラムが中心になっており、看護師にとって必要な地域看護学の知識・技術と、保健師に必要な基本的能力や特性を兼ね備えた教育を行うことが求められている。

このような中、地域看護学実習において、保健師になる目的意識がなく、大学の卒業要件を満たすことのみを

目的とするモチベーションの低い学生が急増し¹⁾問題になっている。また、保健所においては、専門的業務や健康危機管理業務の増加、市町村においては市町村合併や行政改革による保健師の定数削減、地区分担から業務分担への移行などによる地域看護学実習の学生指導体制の脆弱化など、実習受け入れ機関においてもさまざまな問題が生じている。

地域看護学実習は、学生たちが今まで病院実習で関わってきた対象者とは異なり、地域で生活しているあらゆるライフステージ・健康段階にある人々を対象とする。今まで学んできた知識・技術を対象者に実践し、統合した看護実践能力を培う場とするには、実習に臨む学生が保健師の姿をイメージし、地域看護学実習における明確

 2009年9月30日受付

2009年11月20日受理

 別刷請求先：岡久玲子，〒770-8509 徳島市蔵本町3-18-15
 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部地域看護学分野

な学習目標を持つことが大切となる。そして、指導者は学生の実習目標を理解することから始め、学生が持っている実習目標達成のために支援していかなければならない²⁾。

そこで本研究では、看護系大学で学ぶ4年次学生がどのような学習目標を持って地域看護学実習に臨んでいるのかを明らかにする。

研究方法

1. 分析対象

A看護系大学4年間の3年生までに、地域看護学を含む専門分野の講義および医療機関での臨地実習を終え、地域看護学実習に臨む4年次学生92人の個別の学習目標を分析対象とした。なお、この学習目標は、地域看護学実習開始前に学生が提出した課題レポートから抽出した。

また、学生は3年生の終わりから4年生初めに地域看護学実習開始前オリエンテーションとして、大学が提示した実習要項に沿って実習目標および方法について説明を受けている。

2. 研究期間

平成20年4月から5月にかけてデータ収集および内容の分析を行った。

3. データ収集および分析方法

実習前に学生が記述した個別の学習目標に含まれている項目を抽出しコード化した。これを内容の類似性により分類し、カテゴリー化を行った。カテゴリー化に当たっては、分析の信頼性・妥当性を保証するために、共同研究者全員が、合意の得られるまで何度も検討を重ねた。なお、分析は保健所実習における学習目標と、市町村実習における学習目標に分けて行った。

4. 倫理的配慮

学生には、研究目的を説明したうえで、研究協力の有無は成績評価とは無関係であること、研究資料としての提供は自由意志であること、協力の諾否により不利益はもたらさないことを説明した。また、学生の学習目標の内容分類に当たって、氏名や実習先は伏せ、個人を特定できないようにした。

5. A看護系大学における地域看護学実習の概要

1) 実習目的

行政機関の保健師が行う地域保健活動を体験的に学ぶことを通し、地域で生活する人々（個人・集団）の健康を支援する基礎的能力を養うことを目的とする。

2) 実習目標

- ①人々の健康生活に関する地域の特性を社会文化的問題も含めて多面的に捉える。
- ②生活の場における個人・家族および集団を対象として、健康問題解決のための地域保健活動の展開方法を学ぶ。
- ③地域住民の健康についての一次予防から三次予防を目的とした、地域保健医療システムにおける看護職の役割と機能が明確にできる。

3) 実習期間

平成20年6月～7月

4) 実習ローテーションについて

- ①地域看護学実習（保健所1週間・市町村2週間）は、合計3週間である。
- ②保健所実習は5人、市町村実習は2～8人の配置である。

結 果

学生の研究協力は、92人全員から得られた。

地域看護学実習に臨むA看護系大学の4年次学生が挙げた個別の学習目標内容を分析した結果、保健所実習、市町村実習ともに「保健師の業務や役割の学習」の項目が一番多かった。

1. 保健所実習における学生の学習目標（表1）

学生の記述から、保健所実習における学習目標として、合計151のコードが抽出できた。カテゴリー化の作業を行い、16のサブカテゴリーからさらに5つのカテゴリーに集約した。

以下、カテゴリーは「 \square 」、サブカテゴリーは $\langle \rangle$ として示す。

保健所実習での学習目標は、「保健師の業務や役割の学習」、「保健所の連携機能に注目しての学習」、「健康危機管理についての学習」「地域の特性を考慮した学習」、「自己の関心に基づく焦点化した課題学習」の5つのカ

表1 保健所実習における学生の学習目標

(N=92)

カテゴリー	(コード数)	サブカテゴリー	(コード数)
1. 保健師の業務や役割の学習	(52)	保健所の機能と保健師の役割	(13)
		市町村保健師への支援	(13)
		各分野（母子・高齢者・精神等）の施策	(9)
		広域的に取り組むサービス	(9)
		健康教育や健康相談	(6)
		調査・研究	(2)
2. 保健所の連携機能に注目しての学習	(43)	市町村保健師との連携業務	(18)
		市町村保健師との役割の違い	(15)
		他職種や他機関との連携	(10)
3. 健康危機管理についての学習	(37)	児童虐待予防	(16)
		感染症予防	(11)
		災害対策	(7)
		食品の環境管理や衛生管理	(3)
4. 地域の特性を考慮した学習	(11)	地域の健康課題とニーズ	(9)
		地域の実態	(2)
5. 自己の関心に基づく焦点化した課題学習	(8)	実習先の保健所が重視している課題	(8)

テゴリーに分類された。

カテゴリー「保健師の業務や役割の学習」は6つのサブカテゴリーと52のコードで構成された。サブカテゴリーの内容は、＜保健所の機能と保健師の役割＞、＜市町村保健師への支援＞、＜各分野（母子・高齢者・精神等）の施策＞、＜広域的に取り組むサービス＞、＜健康教育や健康相談＞、＜調査・研究＞であった。

「保健所の連携機能に注目しての学習」は3つのサブカテゴリーと43のコードで構成された。サブカテゴリーの内容は、＜市町村保健師との連携業務＞、＜市町村保健師との役割の違い＞、＜他職種や他機関との連携＞であった。

「健康危機管理についての学習」は4つのサブカテゴリーと37のコードで構成された。そのサブカテゴリーの内容は、＜児童虐待予防＞、＜感染症予防＞、＜災害対策＞、＜食品の環境管理や衛生管理＞であった。

また、「地域の特性を考慮した学習」は2つのサブカテゴリーと11のコードで構成された。サブカテゴリーは、＜地域の健康課題とニーズ＞、＜地域の実態＞であった。

さらに、「自己の関心に基づく焦点化した課題学習」は1つのサブカテゴリーと8つのコードで構成された。サブカテゴリーは＜実習先の保健所が重視している課題＞であった。

2. 市町村実習における学生の学習目標（表2）

学生の記述から市町村実習における学習目標として、合計120のコードが抽出できた。カテゴリー化の作業を行い、13のサブカテゴリーからさらに3つのカテゴリーに集約した。

市町村実習での学習目標は、「保健師の業務や役割の学習」、「地域の特性を考慮した学習」、「自己の関心領域に基づく焦点化した課題学習」の3つのカテゴリーに分類された。

カテゴリー「保健師の業務や役割の学習」は7つのサブカテゴリーと66のコードで構成された。その内容は、＜対人サービス(全般的)＞、＜対人サービス(具体的)＞、＜地域住民のニーズ＞、＜子育て支援＞、＜家庭訪問＞、＜健康教育＞、＜連携＞であった。

対人サービスについては、教科書で習った内容を抽象的に記述している全般的なものが30コードで、特に学びたい内容（各行事における住民との関わり方など）を具体的に記述しているものは14コードであった。

また、「地域の特性を考慮した学習」は4つのサブカテゴリーと41のコードで構成された。サブカテゴリーの内容は、＜地域の特徴・特性＞、＜地域独自のサービス＞、＜地区組織活動＞、＜地域の優先課題＞であった。

また「自己の関心に基づく焦点化した課題学習」は2つのサブカテゴリーと13のコードで構成された。サブカ

表2 市町村実習における学生の学習目標

(N=92)

カテゴリー	(コード数)	サブカテゴリー	(コード数)
1. 保健師の業務や役割の学習	(66)	対人サービス (全般的)	(30)
		対人サービス (具体的)	(14)
		地域住民のニーズ	(7)
		子育て支援	(4)
		家庭訪問	(4)
		健康教育	(4)
		連携	(3)
2. 地域の特性を考慮した学習	(41)	地域の特徴・特性	(26)
		地域独自のサービス	(6)
		地区組織活動	(5)
		地域の優先課題	(4)
3. 自己の関心に基づく焦点化した課題学習	(13)	自己の関心領域における焦点化した課題	(8)
		実習地域の住民である学生の体験を通じた課題	(5)

テゴリーは、＜自己の関心領域における焦点化した課題＞、＜実習地域の住民である学生の体験を通じた課題＞であった。自己の関心領域の中には、子育ての孤立に伴う不安を取り除く援助や、市独自の健康スローガンに対する保健師の取り組みなどがあった。

考 察

学生の挙げた目標の内容は抽象的なものから具体的なレベルのものまでであるが、学生が独自に挙げた目標は少なく、教員が提示した実習目標にはほぼ沿った内容にとどまっていた。

その中で保健所での学習目標は、保健師の業務・役割に注目したものが最も多く、講義などで学んだ保健師の役割に関する一般的な知識に基づいた内容を挙げていた。

また、他機関との連携や健康危機管理について挙げた者が多かったのは、これらが保健所の重要な働きの一つとして認識できていたことに加え、災害や感染症対策などの情報を発信する機関としての保健所の機能が新聞やテレビなどから発信されることにより、学生の印象を強化したと考える。

全国保健師教育機関協議会の「平成20年度保健師の教育の課題と方向性明確のための調査報告書(第2版)」³⁾によると、保健師教育の技術項目のうち「危機状態(DV・虐待・災害・感染症など)への予防策を講じる」について、卒業時の到達度を8割の学生が達成できている割合は、個人/家族を対象にした場合は35.2%

(4年課程)、集団/地域を対象とした場合は27.8%(4年課程)であったと報告している。今後は、学生が保健所での学習目標として健康危機管理を多く挙げていたことに注目し、目標達成への指導プログラムのあり方を大学と実習関連機関との間で話し合っていく必要があると考える。

また、学生への実習指導においては、どのような方法で学習目標を達成しようと考えているのかも明らかにしておく必要がある。実習では、工夫次第で、一つの保健事業での体験から複数の実習内容項目を学ぶ機会とすることもできる²⁾。たとえば、健康危機管理を保健所の重要な機能であると学生が捉え、それを学習目標にしていた場合、市町村実習の乳幼児健診や育児相談の場面で、保健師や他職種による虐待予防を視野に入れたかわりを学ぶこともできるのである。

さらに、保健所実習は実習期間が1週間であり、市町村の2週間に比べて短く、実習内容も、市町村が地域住民との直接の関わりを持ち、学生自らが実施できることが多いのに対し、保健所では講義や演習、見学が中心となることで学習目標に相違が生じたと考えられる。しかし、大川ら⁴⁾は、「どのようなテーマで学んだかということが、学生の対象についての理解に大きく影響している」と述べている。そして、直接住民のケアに参加できる機会の多さというよりは、実習に臨む上でのテーマ、学習目標を持つことの重要性を示唆している。

一方、市町村の学習目標についてみると、「保健師の業務や役割の学習」の中で、対人サービス、地域住民の

ニーズ、といったキーワードが挙げられており、地域に密着した保健師活動の役割について学ぼうとする姿勢が窺える。また、「地域特性を考慮した学習」においても、地域独自のサービス、地区組織活動、地域の優先課題、といった言葉がみられ、保健所で挙げた内容よりも具体的であった。

さらに、母子保健の中での自己の関心領域における焦点化した学習課題を挙げた者もいた。これは、近年、各市町村が工夫を凝らしたホームページなどにより詳細な地域情報の提供を行っていることで、実習地域の事前学習で地域特性をイメージしやすくなっていることによると考えられる。実習地における住民に親しみやすい地域独自の健康スローガンを目にしたとき、学生は、そのことから保健師はどのような取り組みをしているのだろうか、興味や関心を広げ、高めることができる。

また、実習地域が居住地域であった学生の目標には、地元で生活する中での疑問や、もっと自分が住んでいる町を知りたいという関心が、具体的な学習目標の設定につながっていると考える。

このように、具体的な学習目標を持ち、地域への関心も高まれば、実習での行動目標も設定しやすく、おのずと積極的な態度につながると考えられる。

しかし、市町村に比べ、保健所では具体的に「自己の関心に焦点を当てた課題学習」を挙げた者が少なかったことは、学生にとって身近に接することの少ない保健所のイメージや保健師の役割などについて、学生が高い興味や関心を持つに至っていないことを示唆するものである。保健所は、健康診断などで地域の中で広く利用されてきた機関でもあるが、学生にとってみれば利用する機会の少ない場であり、特にそこで働く保健師には接する機会が少ないことが改めて認識できた。

藤丸ら⁵⁾は、地域看護学実習を効果的に行っていくために、講義の段階から動機づけをして実習のイメージ化を図っていくことが重要としている。同様に五十嵐ら⁶⁾も、学生が保健師活動への具体的なイメージを持てるような演習を行うなど、興味を持って学習および実習へ取り組めるような講義への工夫が必要であると述べている。

本研究でも、これらの結果と同様に、地域看護学実習を学生の高い関心による充実した学習の場にするためには、講義の段階から保健師活動の実際に触れる機会を設け、公衆衛生活動を担う行政機関における保健師だけでなく、保健師の活動する場に関心を高めるような学生指導が今後の課題として明確になった。

また、大学側が提示した地域看護学実習の目的・目標は、学生の学習目標の基となるものであることもわかった。酒井ら⁷⁾は、実習目標に対する学生の意見から、わかりやすい目標づくりと実習行動指標作成の必要性を述べている。今後は、先に述べた「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」の項目に沿った内容で、かつ学生にわかりやすい実習目標を示していくことでイメージを深め、より具体的な学習目標を持てるよう支援していきたい。

最後に、本報告は地域看護学実習開始前のオリエンテーションの一環として行った実習目標の明確化による学生の課題レポートとしての資料の分析によるものであり、意図的な介入によるものでなく、実態を把握したものに過ぎない。しかし、改めて内容を詳細に見ることにより、今後の指導上の課題を見出すことはできた。今後、導入の講義から実習までの一連の流れの中で、学生の到達度をあげる取り組みを工夫していきたい。

結 論

看護系大学の最終学年4年次に開講される地域看護学実習に学生がどのような目標を持って臨んでいるのか、その内容を明確にすることを目的に、学生から提出された実習目標の内容を分類した。その結果、市町村に比べて保健所に対して学生は具体的な目標を考えられていないことが明らかになった。今後の課題として、地域看護学の学習が始まる早い段階から、保健所をはじめ保健師活動のイメージアップを図ることの必要性が示唆された。

なお、本報告の要旨は、第52回日本公衆衛生学会（於博多市、2008.10）において発表した。

謝 辞

本報告のデータの提供に協力いただきました学生諸子に感謝いたします。

文 献

- 1) 大場エミ：臨地実習の今日的な課題，保健師ジャーナル，64(5)，400-403，2008.
- 2) 日本看護協会監修：保健師業務要覧，第2版，123-142，日本看護協会出版会，2008.
- 3) 全国保健師教育機関協議会：平成20年度保健師の教

- 育の課題と方向性明確化のための調査報告書，第2版，12，2009.
- 4) 大川聡子，松尾理恵，和泉京子 他：地域看護学実習における学生の学びとその到達点の検討，大阪府立大学看護学部紀要，12(1)，93-101，2006.
- 5) 藤丸知子，椛勇三郎，佐藤祐佳 他：地域看護学実習の評価と今後の課題－学生の実習自己評価と到達度の分析から－，保健師ジャーナル，62(6)，494-500，2006.
- 6) 五十嵐久人，尾上佳代子，鶴田来美 他：地域看護学実習における実習経験内容と自己評価，南九州看護研究誌，5(1)，61-65，2007.
- 7) 酒井康江，松尾和枝，宮地文子 他：日本赤十字九州国際看護大学・地域看護学実習 I のプログラムおよび指導法に関する検討，日本赤十字九州国際看護大学 intramural research report，6，33-40，2008.

Analysis of the learning-targets of the nursing university students during practicum of community health nursing

Reiko Okahisa, Toshiko Tada, Chieko Fujii, and Yasuko Matsushita

*Department of Community Nursing, Institute of Health Biosciences,
the University of Tokushima, Tokushima, Japan*

Abstract

Purpose : This research is to clarify what learning-targets fourth year nursing university students have during a practicum of community health nursing.

Methods : One month prior to the start of the practicum, 92 students were explained about the practical objectives and methods in line with essential practicum items. The contents of the learning-targets (things they hoped to learn in practical training at healthcare centers and in municipalities) thought up and noted by the students were classified.

Ethical Consideration : The students were explained about the research purpose and then the following: the fact that they would not be subject to grade evaluation; that their provision as a research material was voluntary; and that whether or not they would cooperate in the research was not to cause any disadvantage to them. In the classification of the learning-targets of the students, their anonymity was secured by concealing their private information such as name and the place of practical training.

Results : In the practical training at healthcare centers, the learning-targets were classified as: “Learning of the duty and role of a public health nurse”, “Learning of the collaborative function of healthcare centers as a key focus”, “Learning of health risk management”, “Learning with consideration on community characteristics”, and “Task-oriented learning based on the focus of one’s own interest”. In the practical training in municipalities, the learning-targets were classified as: “Learning of the duty and role of a public health nurse”, “Learning with consideration on community characteristics”, and “Task-oriented learning based on the focus of one’s own interest”.

Discussion : The contents of the learning-targets ranged from abstract ones to specific ones. The learning-targets in the practical training in municipalities indicated the active attitude of the students to learn the work of public health nurses which was linked to the community more than healthcare centers were. In recent years, each municipality provides its own regional information through its ingenious homepage. In the prior study on the place for practical training, this is believed to have helped the students image the community characteristics and consequently take a better interest in the place.

Key words : practicum of community health nursing, nursing university students, learning-target